

タイで和牛を出展 シナワトラ首相から絶賛 タイフェックス 2012



インラック・シナワトラ首相（写真中央）が会場を訪れて試食を行った

タイのバンコクで国際食品展示会タイフェックスが5月23～28日まで開催された。会場では日本の和牛肉も展示され、タイのシナワトラ首相も試食に訪れるなど、来場者から高い関心を集めた。

タイフェックスには、ジェトロが事業者向けに5月23日～25日までの3日間、「日本パピリオンブース」を設け、日本から15事業者が参加した。

食肉事業者は3社で、WAGYU SAMURAI（ミートコンパニオンの海外向けプラン

ド和牛）、山形牛（山形県食肉公社）、近江牛（大吉商店）が出展した。

和牛が展示された3日間は約9万人の来場者が訪れ、会場の各ブースには長蛇の列ができた。熱気に包まれる中、「WAGYU SAMURAI」のコーナーでは、8尺冷蔵ケースに埼玉県和光市のアグリズ・ワンでと畜されたA5グレードのおよそ100kgの和牛肉サーロインやカタロース、モモがブロックとスライスで展示された。

初日となった23日には、インラック・シナワトラ首相（＝

写真中央）が会場を訪れて試食を行ったが、「とてもおいしい」と感嘆した。インラック首相の試食には報道カメラマンのフラッシュが一斉にたかれて会場は一時騒然となった。

本物の和牛肉のおいしさと魅力が、現地タイの関係者にも大きなインパクトを与えた3日間となった。会場で注目を集めていたミートコンパニオンの阿部昌史代表取締役社長は「今回の反応からタイ市場に対して大きな魅力を感じた」とコメント。今後、積極的に輸出に取り組む意向を明らかにした。